

2022年7月号

(2022年7月19日発行)

大阪：〒598-0013 大阪府泉佐野市中町 1-2-4

e-mail：info@senshu-sr.com

HP：<https://senshu-sr.com>

泉州経営協会 静社労士事務所便り

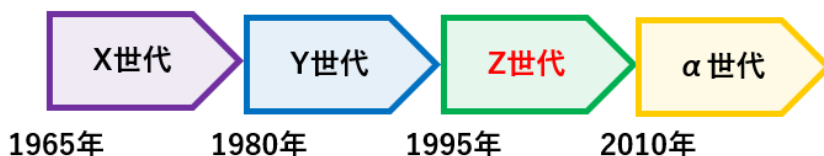
「Z世代」を知ってみる

4月入社の新入社員には新規学卒も多いですね。入社から3か月が経ち、業務の流れが掴めてきた頃ではないでしょうか。さて、今の若者は「Z世代」といわれる者達。今回は、Z世代についてご紹介していきたいと思います。

※過去の事務所便りは、<<https://senshu-sr.com>>の事務所便りタブよりご覧頂けます。

◆Z世代とは

Z世代の年代には諸説ありますが、概ね1990年後半～2000年代生まれの人を指します。その前はY世代、さらに前はX世代となり、下図のとおりです。日本のZ世代は少子高齢化の影響で日本総人口の13%にすぎませんが、世界のZ世代は世界総人口の3分の1を占めており、労働力や消費等の市場として注目すべき世代と言えます。



◆Z世代の時代背景

10代は多感な時期あるいは思春期とも言われ、色々なことに興味を持つ感受性豊かな年頃で、この時期の経験が後の人生に大きく影響するようです。Z世代にとって、2011年の新語・流行語大賞のトップテンに選ばれた「スマホ」は、多感な時期に手に取ることができた者も多かっただろうし、両親がパソコンを使っていたのを目にしたことでしょう（ちなみにY世代である筆者の多感な時期と言えば、ポケベル、PHS、Windows95でした、いや～懐かしいです）。

また、インターネットの普及により世界中の人々とつながることができ、一世代前とは全く異なると言ってもいいほど、デジタル文化の目覚ましい発展の中で育ったZ世代には、以下のような傾向が見られます。

- ・SNSで自分の意思を発信し、自分が面白い、感動したことを共有するなど**自分の価値観を尊重する傾向**
- ・コロナという社会的な大変化による新たな常識や生活様式を迫られたことで、将来の不安から**経済面では保守的な傾向**
- ・コロナの他、SDGs、LGBTQなど**社会課題への関心に高い傾向**（自分は社会や会社で何ができるのか、何をすべきか）

◆Z世代の感覚

Y世代筆者とZ世代の感覚は、どのように違うのでしょうか。

- ・わからないことは、辞書で調べるのではなく、インターネット検索。
- ・マニュアルは、活字を読むのではなく、動画を見る。
- ・支払は、現金ではなく、キャッシュレス。
- ・買い物は、お店に行くのではなく、オンラインショッピング。
- ・番組視聴は、一方的に流れるテレビではなく、自分の見たい動画のインターネットサイトを見に行く。
- ・授業や面接は、対面ではなく、オンライン。
- ・要件は、メールではなく、チャットでリアルタイム。

・・・等々、その違いに共感することが多いのではないのでしょうか。



◆Z世代との関わり方

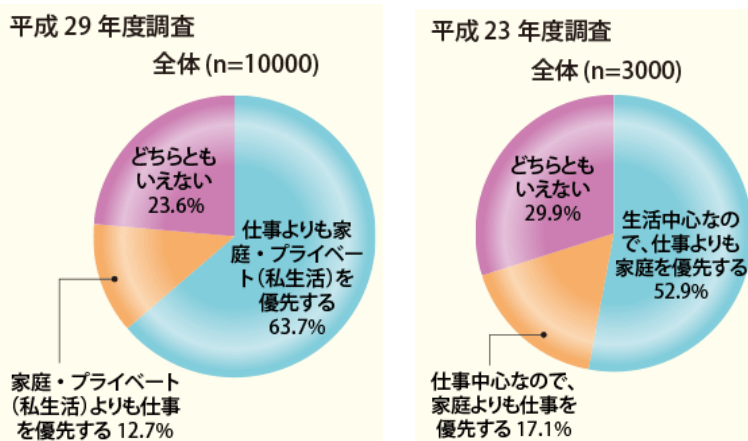
「なぜ紙なのでしょう？」。とある会社の営業会議が終わった直後、Z世代である今年入社した学卒新人 A が言いました。営業会議では、紙に印刷された資料が人数分配られ、重要と思われる箇所には、各々書き込んだり線を引いたりしていました。従業員にとっては、いつもの営業会議、いつもの作業。誰も不思議にも思わなかったそうです。しかし、A からすれば、会議にはパソコン一つ持ち込めば良いだけで、紙資源や印刷の費用コスト、その準備に係る時間コスト、重要な箇所に書き込む人と書き込まない人(そもそも重要と思う人と思わない人)による情報不一致等々、疑問の残る会議でした。

こうした疑問に対し、「学卒新人が何を言っているんだ」、「今までこうやってきたんだ」と否定的に捉えていませんか。先に述べたように、Z世代は自分らしさ大切にしますので、一方的に価値観を押し付けるのは逆効果です。この会社では、重要度に応じて色分けした営業資料をクラウド上で共有し、同じ資料をいつでも見られるようにしました。営業中でもリアルタイムに書き込んで更新、迅速な情報共有と対応が実現され、生産性の向上に寄与したそうです。

Z世代の主張は、会社にとって新たな視点や気づきを与えるきっかけになります。そのため、会社としては、何でも相談したり、気兼ねなく意見を言い合える職場作りが必要です。入社から3か月が経ち、業務の流れが掴めてきた新入社員に、業務の進め方や職場のコミュニケーション、ツール、仕事の意義、モチベーションなどを聞いてみてはいかがでしょうか。意外な答えが返ってきて、はっとさせられるかもしれません。これからの時代を担っていくZ世代の考えに理解を示すことは、会社の活性化につながる可能性があります。

◆就労等に関する若者の意識

2017年のコロナ流行前の資料になりますが、内閣府から「就労等に関する若者の意識」調査の資料が発表されています。調査の結果は、①(就労に関して)依然として多くの若者が不安を抱えている、②仕事より家庭・プライベートを優先、③転職を否定的に捉える若者は少ない、ということでした。筆者が注目したのは②です。下図のように平成23年から29年の間にこれだけ変化しているということは、令和4年現在の変化も容易に予想できます。「仕事より私生活を優先しやがって」ではなく、何故私生活を優先するのかを考える必要があります。自己の価値観を高めたり、社会課題に取り組む者も多いのではないのでしょうか。私生活で得た新たな視点や気づきが会社に有益をもたらすこともあるのではないのでしょうか。



内閣府 就労等に関する若者の意識 : <<https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30gaiyou/s0.html>>

◆編集後記

今回の記事を書いていて、そういえば先月の事務所通信で紹介した iDeCo の反響は 20 歳代、30 歳代に多かったな、と思い出しました。なるほど、経済面で保守的な傾向のある Z 世代だから、自分の将来は自分で守るといことか、と得心しました。

筆者は、仕事柄役所と関わる事が多いですが、今まで紙面いっぱい字が書かれていた役所の案内は、いつしか図が増えて視覚的に理解しやすくなったり、制度説明は動画配信をしていたり、押印が廃止になって電子署名が可能になったり、、、身近なところでも考え方がどんどん変わっていていると感じます。

10 年後には、α世代が社会人になります。世代を先取りすることは、市場を予測することでもあり、会社の未来に寄与することにもなります。行き詰ったり、うまくいかなかったときには、世代に目を向けると何かヒントが見つかるかもしれません。